

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和2年5月分）

【製造業】生産が落ち込んでいる

- 製造業は、3月の鉱工業生産指数では、化学工業が大幅に増加したものの、多くの産業で低下となった。ヒアリングにおいては、工場稼働率が落ち込んでおり、雇用への影響を懸念する声が聞かれた。

【地場産業】需要低迷が不安視される

- 地場産業は、3月の鉱工業生産指数では、繊維工業で前月比増加したが、その他の産業で低下となった。ヒアリングにおいては、新型コロナウイルスの影響で新たな受注が減少しており、需要低迷を不安視する声が目立った。

【設備投資】落ち込みが長期化している

- 設備投資は、4月の金属工作機械受注額について、前年同月を大きく下回った。前年同月を下回ったのは、国内向けは17ヶ月連続、海外向けは18ヶ月連続となった。ヒアリングにおいては、新規の設備投資が延期となるとの声がある一方で、IT関連の設備投資など補助金を活用し積極的に実施するとの声もあった。

【個人消費】消費動向に変化が見られる

- 個人消費は、小売店の4月の販売額について、全体では前年同月比で3ヶ月連続の増加となったが、コンビニなど落ち込んだ業態もあった。ヒアリングにおいては、外出自粛等によって個人の消費動向に変化（例：ネット購入の増加）が見られるようになった、といった声が多くあった。

【観光】新型コロナウイルスの影響が大きい

- 観光は、前年と比較し、前年と比較し、新型コロナウイルスの影響による施設等の休業により、観光地、宿泊施設ともに前年同月を大きく下回った。インバウンドは、ほぼゼロに近い数字となった。ヒアリングにおいては、国内旅行客の誘客には近場から対策していくとの声があった。

【資金繰り】資金繰り確保のため積極的に制度融資が活用されている

- 企業の資金繰りは、4月の制度融資実績で、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からは、実質無利子・無担保融資が開始されたことにより、引き続き新型コロナウイルス関連の融資は多く、業種、企業規模万遍なく申込がある、との声があった。

【雇用】急激な雇用環境の悪化傾向が見られる

- 雇用面は、4月の有効求人倍率は、1.51倍と54ヶ月ぶりに1.5倍台の水準にまで低下した。ヒアリングにおいて、生産調整を行っており、週休3日の導入や勤務時間の削減などで対応しているとの声がある一方、求人が増え新規雇用がしやすくなったという声もあった。

【景気動向】

景気動向指数（一致指数）と中小企業の景況感は悪化した。